



LIONS CLUBS INTERNATIONAL DISTRICT 334-A

ICHINOMIYA LIONS CLUB

一宮ライオンズクラブ

国際会長テーマ 「We Serve (われわれは奉仕する)」

一宮LCスローガン 「Service For Next 明るい未来へ ウィ・サーブ」

第 1565 回例会

2022~2023

No.4

献血奉仕例会



と き 2022年8月24日(水)9:30~15:30

ところ 真清田神社 参集殿

本日は一宮ライオンズクラブ献血奉仕の日です。全員参加の奉仕例会です。

昭和52年8月10日第500回例会を記念して献血運動を実施以来、本年は46回目。昨年までの累計献血受付数は21,231名となっております。

献血運動によって集められた血液は、愛知県赤十字血液センターを通じてお役に立っております。

不足がちな貴重な血液の要請に少しでも役に立てたいと思います。

奉仕活動へのご参加をよろしくお願い致します。

《 委員会別役割分担表 》

午前の部 (8:30~12:30)	
指導力育成・出席委員会	粗品渡し・駐車券対応・来賓接客
会員増強・会則・スペシャルティクラブFWT委員会	献血受付
計画委員会	粗品渡し・駐車券対応・ドリンクコーナー
LCIF・国際関係・YCE・レオ委員会	献血受付(駐車場誘導と交代あり)
親睦委員会	駐車場誘導・呼び込み(受付と交代あり)
保健委員会	全般補助・駐車場整理・食事準備
午後の部 (12:30~16:30)	
アラート・環境保全・社会福祉委員会	粗品渡し・駐車券対応・来賓接客
財務委員会	献血受付
マーケティング委員会	粗品渡し・駐車券対応
青少年教育委員会	献血受付(駐車場誘導と交代あり)
ライオンズクエスト・薬物乱用防止委員会	駐車場誘導・呼び込み(受付と交代あり)
保健委員会	全般補助・駐車場整理・食事準備
賛助会員	駐車場誘導・呼び込み

*景品の袋詰め・終了後の清掃は全員でお願い致します。

*各委員長の指示にご協力をお願い致します。



第 1564 回例会報告

と き 2022 年 8 月 8 日(月)14:00
 ところ 名古屋文理大学文化フォーラム



334-A 地区ガバナーL 岩田有司公式訪問合同例会が名古屋文理大学文化フォーラム中ホールにて開催され、3R・1Z・7 クラブと 3R・2Z・5 クラブの計 12 クラブの会員が参加されました。

合同例会前にマジカルパレード Beach のアトラクションがあり、演奏が始まると会場は一気にライブ会場の様に盛り上がりました。会員の皆さんも手を叩き、楽しんでいる姿がとても印象的でした。

合同例会は一宮東 LC 小川幹事の司会で進行し、一宮東 LC 波多野会長による開会の辞並びに開会のゴング、当クラブ西尾建一郎会長は「ライオンズの誓い」を代表して唱和されました。

各役員、参加クラブの紹介後、ガバナー歓迎の挨拶を 1ZZC L 鳩山祐二がされ、その後、地区ガバナーL 岩田有司のご挨拶と続けました。

岩田地区ガバナーは、前年度大山地区ガバナーについて「334-A 地区の中でも会員増強や LCIF、両方とも輝かしい実績を納められました。特に会員数は唯一純増され、大きな功績を挙げられたので、私も特に会員増強に1番力を入れて行きたい」とお話されていました。



新会員の紹介では当クラブの新会員の方々はじめ、多数の新会員が参加され、岩田地区ガバナーよりガバナーバッジを頂きました。

アテンダンス報告、また会う日までの斉唱、ライオンズ・ローアと進み、最後に閉会の辞、ゴングにて例会は終了となりました。



▲アトラクション「マジカルパレード Beach」



▲前年度9月以降から今年8月までに3Rへ入会された新会員の方々



▲岩田ガバナーより前地区ガバナーL 大山恭範へ地区名誉顧問バッジをいただきました

第 1563 回例会アテンダンス報告

会員数 253 名 家族会員 137 名

例会出席対象会員数 117 名

出席者 34 名 (メーク・アップ0名)

出席率 29%

◎ LCIF \$1,000寄付ありがとうございます

- L 中川 幸男 (11)
- L 西尾建一郎 (6、7)
- L 吉江有希子 (5)
- L 御子柴孝明 (4)
- L 岡村 強史 (1)

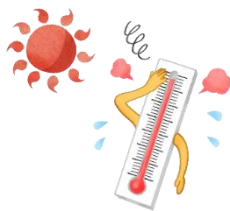


Lions Clubs International
FOUNDATION

会員投稿欄

全部休み

35℃を超える猛暑になったら、仕事、勉強、その他、全部休んで休養するといい。車の運転をやめる条令も定めるといい。。。私が日本のリーダーであったら、反対を押し切ってでも実行させるであろう。環境は変わる。静寂になる。気温も下がる。自然を眺める心の余裕が出てくる。ライオンズクラブへの展開も幅広い、ホッコリとした雰囲気のアクティビティと染まるであろう



大島八重子

次の理事会 (第5回)

と き 2022年9月14日(水) 11:00
ところ Healing Forest cafe

次の例会 (第1566回)

例会

と き 2022年9月14日(水) 12:15
ところ Healing Forest cafe

訃報



当クラブ会員L五藤一樹(行年 58 才)は去る8月16日、ご逝去されました。葬儀・告別式は8月19日平安会館一宮中央斎場にて行われ、ライオンズクラブ関係者始め、多数の方々が会葬されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

令 掌

哀悼の辞

謹んで我が一宮ライオンズクラブの誇りである五藤一樹ライオンのご霊前に当クラブを代表して、最後のお別れの言葉を申し上げます事は誠に痛恨の極みであります。闘病生活を持ち前の前向きなお心で頑張っていたらしくお聞きしておりましたが、突然のご逝去の知らせに接し、驚きと疑いの思いで愕然としております。

貴方は二〇〇六年三月に我が一宮ライオンズクラブに入会されて以来、二〇一三年に幹事、二〇一八年には第六十二代クラブ会長、また二〇〇八年より理事、ライオンインターマや各委員長等歴任されました。

二〇二一年には前地区ガバナーの元、キャビネット会計という大役にも就任されましたが、ご病気の為、完遂出来ずさぞ心残りであられたと思います。

十六年間、ライオンズメンバーとして卓越した見識とライオニズムの精神をもってクラブの発展と改革に取り組んで来られました。

貴方が会長をされた時のメインアクティビティである真清田神社の歴史案内板寄贈やタイムカプセル事業等「温故知新」をスローガンにされたことを見事に具現化された事を今も鮮明に記憶しております。

クラブ員一同はこの偉大な事業をされました五藤一樹ライオンの温故知新の志を受け継ぎ、永遠に奉仕の道を進んでゆくことをお誓い申し上げます。

貴方は指導者として多方面で活躍され、人々の尊敬を一身に集められました。その情熱あふれる人柄は、私共のここに永久に残ることでしょう。

五藤一樹ライオン、お別れの言葉はつきませんが、今は安らかにお眠り下さい。

一宮ライオンズクラブを代表して、謹んで哀悼の言葉とさせていただきます。



令和四年八月十九日
一宮ライオンズクラブ 第六十六代会長 西尾建一郎



活動するライオンズ

釣って、食べて、笑顔に忘れられない初夏の日

群馬県・高崎三山ライオンズクラブ

関越自動車道の高崎インターチェンジから軽井沢方面へ1時間ほど車を走らせ、木漏れ日の下、所どころ幅の狭まる山道を慎重に進むと、次第に視界が開けてきた。わらび平森林公園キャンプ場は標高約1100mの高地にあり、その見晴らしの良さはさしずめ「天空のキャンプ場」といったところ。群馬県内で最も人口が多い高崎市内にあるとは信じられないほど、山深い場所だ。木々の緑が色濃さを増してきた5月28日、高崎三山ライオンズクラブはこのキャンプ場で恒例の「希望館アウトドア教室」を実施した。高崎市内の児童養護施設・希望館の子どもたちを招いて、釣りやバーベキューを楽しんでもらうこの催しは、コロナ禍による中止を挟んで3年ぶりに開かれた。アウトドア教室が始まったのは、クラブが結成された翌年の1986年。養護施設の子もたちがそろって気軽に出かけられる機会は少ないと知り、外に連れ出して楽しんでもらおうと考えたのが始まりだ。クラブには釣り好きが集まる「釣り部会」があり、「釣り堀に連れて行くのがいいだろう」という話になった。以来、実施場所を変えながら今日まで続けられている。



過去には60人近い子どもたちが参加したこともあったが、近年は減少気味で、今回はコロナ禍ということもあって参加人数を絞り、子ども11人と職員8人が参加した。午前11時からの開会式が終わると、早速釣り池へと移動。メインイベントの一つ、ニジマス釣りが始まった。釣りに慣れていない子どもたちに、ライオンズ・メンバーが付きっきりで指導したのだが、開始してからしばらく経っても誰も釣れない。開始前には、入れ食いに近い状態になるので、ある程度釣れたら早々に切り上げるといった話だった。想定外の事態に、釣り部会のメンバーが釣り池の管理人にかけ合うと、今度は次々に当たりが出始めた。どうやら、原因は用意されていた釣り餌のイクラにあったようだ。イクラはニジマスの大好物だが、養殖池で育ったニジマスにはイクラに刺した針が透けて見えていたらしい。そこで、養殖場で普段食べている練り餌に変えてもらったところ、面白いように釣れ始めた。さっきまでとは打って変わり、針を入れた瞬間に釣り竿が弧を描き、糸を引く振動が伝わってくるので、池の周囲のあちこちで子どもたちの歓声上がるようになった。結局、子どもたちは予定していた時間をいっぱい使って釣りを楽しんだ。



釣りが終わると、もう一つのメインイベントであるバーベキューの時間だ。釣った魚はキャンプ場に頼んで、串に刺して塩焼きにしてもらう。ライオンズは鉄板で肉や野菜を焼くために炭火をおこし、食事の準備を始めた。中には進んで調理を手伝う子どももいて、食べるだけではなく準備段階からバーベキューを楽しむ様子が見られた。焼き肉の他には、焼きそばやメンバー夫人お手製の豚汁も提供。最後にお待ちかね、炭火でじっくり塩焼きしたニジマスが運ばれてくると、子どもたちは自分で釣った魚の味をしっかりとかみしめていた。アウトドア教室ではこれまでに5回ほど披露し、毎年喜んでもらっている。

年に1度とはいえ、このアウトドア教室は子どもとライオンズが互いに顔見知りの関係になる機会である。この日参加した子どもたちは低学年の子が多かった。以前は高学年や中学生の参加もあり、低学年の子たちの面倒を見る姿が印象的だったと話すメンバーもいた。しかし今回、コロナ禍で3年ぶりの開催となったことから初めて参加する子どもが多く、顔見知り同志の関係が途切れてしまったことが残念でならないという。その上、マスクのせいで顔を見分けるのが難しくなっている。とはいえ、もともと集団で遊びに行く機会が少なく、更にコロナ禍で外出しにくい日々が続いた希望館の子どもたちにとって、自然の中で思う存分遊べるこの日の経験はかけがえのないものになったはずだ。「子どもたちが楽しんでいる姿を見れば自分たちも楽しいし、それが一番」そんな石川会長の言葉が印象的だった。